



審査員特別賞




◆審査員特別賞【小学生の部】

もう一つの家族へありがとう

さいたま市立北浦和小学校 四年 出塩 彩佳

私は、昨年の夏休みに首の病気で入院しました。家族とはなれてすごさみしさや、不安な気持ちでいっぱいでしたが、病棟のかんごしさん達のやさしい笑顔に元気づけられました。かんごしさんの○○さんは、真夜中にさみしくて泣いていた私のそばにねむれるままでいて、おしゃべりの相手になってくれました。二人でしたおしゃべり、楽しかったな。△△さんは、私の大好きなすみっコぐらしのキャラクターをそっくりにかいてくれました。自分のノートを見ていたので、もしかして、たくさん練習してきたのかな。そんなあたたかなかんごしさん達のおかげで、つらい入院生活も乗りこえることができました。かんごしさんは、病気やけがを治す手助けをしてくれるお仕事だと思っていたけれど、それだけでなく家族のようによい、支えてくれる大切なそんざいなんだと感じました。



私は今、元気にすごしています。

かんごしさん、私を家族のように支えてくれて、ありがとう。

私もかんごしさん達のように、だれかの支えになって、笑顔にしてあげられるようなそんざいになりたいです。

◆審査員特別賞【小学生の部】

地域のやさしさ

さいたま市立仲町小学校 五年 秋山 咲希

自治会や子供会の役割って何だろう。これまで単なる行事として参加してきたが、二三年前から父と母がこれらの二つの手伝いを始めた事で、地域を支える大人達の苦勞、努力を初めて知る事が出来た。なにげなく参加してきた行事も今では私の大好きな行事となっている。その中で、私の大好きなとっておきの二つの行事を紹介しようと思う。

一つ目はかるた大会だ。埼玉の郷土かるたを使い、個人戦と団体戦で競う。私は一年生の時から三人一組の団体戦に参加している。三年生の時は三人でかるたの札を全部覚える程練習した。四年生では、かるたに描かれている埼玉県の名所めぐりもするほど、かるたが好きになった。この行事の魅力は他の地区の人達とも顔を合わせて話す事が出来る点だ。

二つ目は夏祭りだ。夏祭りでは、低学年がだしを引き、高学年がお神輿を担ぐ。五年生

になり、周りをよく見てみると、この行事は特に地域の人達の協力が無いと成り立たないという事を痛感した。お神輿が道路の端を通ったり狭い道を曲がる時、大人達が安全に誘導してくれる。途中休憩所では、沢山の人が待っていて私達が熱中症にならないようにジュースやゼリーを用意してくれる。昨年、父は、お神輿の先頭に立ち、掛け声をかけて、お祭りを盛りあげていた。地域の人々の支えがあるからこそ安心して夏祭りを楽しめるのだと思う。

自治会や子供会の行事に参加することで仲間も作れる。自治会や子供会に入るのは、地域の人達と関わりを持ち人間関係を築いていく為なのだと思う。私達は、その会を築いていっている人達への感謝を忘れない事が大切だと思う。何かが成り立つには多くの人々の努力がある。その事を私達は決して忘れてはいけない。

◆審査員特別賞【小学生の部】

見えなかったもの

川口市立飯仲小学校 六年 西村 律

ぼくが所属するサッカー少年団は、三年生から合宿がある。合宿はたて割りで、六年生が班長。班員は班長の指示に従って行動する。部屋わりも班ごと。布団も押入れの中にあるのを自分達でしく。だが布団は全部同じではないし、どこも同じ条件ではない。窓際は大量にがなどの虫の死がい落ちていて、気持ち悪いし、押入れの近くは、アブが隠れていて夜中に刺されるので、みんな嫌がる。三年生で初めて合宿に参加した時、ぼくは班長が、最年少のぼくを優先してくれるだろう、と思って安心してた。だから、

「よし、全員でジャンケンで決めるぞ。」

その一言に「なんてひどい班長なんだ。ぼくが班長になったら、絶対みんなに優しくするぞ。」ずっとそう思っていた。

六年生になったぼくは、今年班長になった。そして、あの時の班長の「本当の優しさ」に気が付いた。班長は、班員全員のことを考えなくてはいけない。もし班長が三年生を優先するようなことがあれば、きっと他の班員から文句がでる。そうしたら、みんなが嫌な気持ちになって、班のまとまりも悪くなる。どうすればみんなが平等に、気持ちよく過ごせるのか。あのジャンケンには、班長のぼく達への思いやりだったんだ。そういえば、ジャンケンに負けて、アブに刺されたぼくに班長は、

「律、大丈夫か。これ、持っていないだろ。」

そう言っつて、こっそりかゆみ止めを貸してくれた。準備が遅いぼくに、何度も注意してくれたのは、みんなの前でコーチに叱られて、合宿が嫌な思い出にならないよう、気づかせてくれたんだ。

相手の立場になって初めて、相手の気持ち分かる、見えなかったものが見えてくる。人間関係に思いこみの一方通行はうまくいかない。ぼくはこの夏、相手の立場で考えることの大切さに気が付いた。



◆審査員特別賞【中学生の部】

笑顔のお返し

さいたま市立与野東中学校 一年 西本 彩乃

私には、私が産まれる前からとてもお世話になっている地域の方がいます。

私の父と母は大阪出身で、父の仕事の関係で埼玉に来ました。母は引越してきたので埼玉には全く知り合いがおらず、とてもさみしく不安だった時がありました。その時に親切に話しかけてくださった方がいたのです。その方は、私達家族の向かいに住んでいるご夫婦です。

私がお腹に出来た時に、どこの病院がいいのか分からなかった母に、詳しく教えてくれたそうです。そのおかげで、母は妊娠中も不安なく落ち着いて過ごすことが出来ました。私達家族にとって心の支えでもあり、とても頼りになる優しい人達です。


私が幼稚園の年長の時に、妹が産まれました。母が毎日の育児に大変な中、ある日私は

幼稚園でケガをしてしまいました。とても驚いた母は、産まれて間もない妹を連れて、病院に行こうとしていました。そんな様子を見て、ご夫婦が病院まで車で送迎してくださいました。妹がまだ小さいため、預けることは出来ませんでした。付きそってくださいったことで、母はとても心強かったそうです。

私が小学校に通う頃には、母の育児もだいぶ落ち着きました。ご夫婦は、クリーニング店を経営しています。私はお店の前を通る時に、遠くからガラス越しにお店の中を見るのが、自然と習慣になっていました。それは中学生になった今でも変わりません。

あいさつするだけの時もあつたり、お店の中に入って少し長話をする時もあります。学校のこと、友達のこと、家族のこと、色んな話をします。ガラス越しににこっと笑つたり、手を振るととても喜んでくださいます。


ご夫婦には三人の子供がいますが、みんな社会人になってるので、私との会話はとても嬉しいそうです。日々の励みにもなると言ってくれます。そのことを聞いて、今まで私達家族が色んな相談に乗ってもらっていたので、私のささいな行動によって元気を与えることが出来ているなんて、とても嬉しいなと思いました。少しでもお返しが出来てい



るのかなと思ったりもします。

だれにでも今まで生きてきた中で、お世話になった地域の方がいると思います。その方に、あいさつなどささいなことをしてみることで元気を返すことが出来ると思います。元気を返すことで、もつとつながりが深くなって、きつと良い関係を保つことが出来るはず  
です。

私はこれからも感謝の気持ち을忘れずに、クリーニング店のご夫婦との関係をずっと大切にしていきたいです。私の笑顔で少しでも元気に過ごしてもらえることを願って、ガラス越しのやり取りを楽しみに続けていきたいと思っています。



◆審査員特別賞【中学生の部】

私の命

蓮田市立蓮田中学校 二年 山崎 夏花

私の命が今あるのは、誰よりも多くの人の支えがあったからです。

私は、先天性胆道閉鎖症という病気で生まれてきました。生後すぐに、手術・入院と病院生活が始まったそうです。それでも肝臓はよくなり、自分の肝臓では七才まで生きられないと宣告をうけました。そこで、最後の手段として生体肝移植をすることに決まり、家族の生活は一変し私中心の生活になりました。母から肝臓の一部をもらうことになり母はたくさん検査とダイエットをしました。母のいない家庭で父は仕事の他に姉兄の世話、料理、幼稚園の弁当作りなど慣れないことをしました。姉兄はいろいろなことを我慢したそうです。私の命を救うため家族は一丸となってくれました。

そして、二度の手術をやる中でたくさん病院の医師、看護師、薬剤師、移植コーディネ

ネーター、職員の方々と関わりをもちました。その方たちの適切な処置やお世話がなかったら私の命はなくなっていたことになりました。今、何の制限もなく中学校生活が普通に送れているのは難しい生体肝移植ができたからであり、それに関わってくれた多くの方々のおかげです。十四年間今でもずっと病院の先生とは関わっていて私の体調に気を配ってくれています。一生つき合わなくてはならない病気なので、小学校高学年になった頃から病気について詳しく説明してくれる看護師さんもいます。外来で会った時には、

「元氣？」

「勉強、バレエ頑張ってる？」

と優しく声をかけてくれ、お話をする時間がとても楽しいひとときです。

それから、同じ病気だったお友達ともずっとつき合いがあります。お母さんたちが情報交換をし、子どもたちの成長を見守ってきました。今でも、近況を報告し合っています。

これだけたくさんの人と出会い、今もずっと関わり合えているということは私にとって幸せなことです。病気だったから出会えたんだ。こんなにくさんの人に巡り合えたのは、私がついている運なのだろう。今では、病気を悔むことなく、自分のものとして受け入れ



ることができた。病気がもってきた唯一の幸運だと思います。

私は将来、小学校の先生になりたいと思っています。子どもたちが私と関わる中で何かを学び、つないでいってほしいと思っています。

私は、この命を大切にして中学校生活を充実したものになるように頑張っていきたいと思っています。

◆審査員特別賞【中学生の部】

大切な仲間

川口市立東中学校 三年 千竈 健太

僕には、かけがえの無い大切な友達がいる。一年に一度しか会う事のできない友達だ。もちろん、今まで過ごして来た幼稚園、小学校、中学校の友達とも沢山の楽しい思い出もあるが、少し意味が違う。

僕は四才十カ月の時にとある難病を発症した。今の所一生つき合っていかなければならない病気だ。あまり知られていない病気なので、環境の変化ごとに、母が学校の担任の先生や養護の先生、仲良くしている友達のお母さん達に病気の説明をしてくれ、理解してもらって、今まで病気の事でいじめられたりする事は無い。僕は色々な人達に支えてもらって生きているのだと思う。

最初に書いた一年に一度しか会えない友達とは、同じ病気の子ども達が集まる三泊四日

のサマーキャンプで会う事のできる友達だ。宿泊施設で生活を共にし、山登りやキャンプファイヤー等盛り沢山のイベントで楽しませてもらっている。そこには、小学校一年生から高校三年生までの患児が四十名程参加する。その中で年の近い二人の友達とはもう何年も一緒に参加し仲良くなった。一年に一度しか会えなくても、すぐに打ち解け、ふざけ合ったり、くだらない事を話したりできるので。きっと同じような悩みを抱えていたり、同じような体験をしているので、長い間会わなくてもすぐに時間を埋める事ができるのだと思う。

参加者の中には、同じ病気で大学に通ったり、社会人になった大先輩もいるし、小児科の先生達、看護師さん、栄養士さん等沢山の大人も僕達を支えてくれている。みんなキャンプに合わせてわざわざ休みを取って来てくれているのだ。本当にありがたい事だと思う。そういう人達がいるからこそ、僕達が安心して親から離れて参加できるのだ。

このキャンプに参加してもう六年になるが、こういう人とのつながりは、ずっと持ち続けていたいと思うと同時に、自分も小さい子達に伝えていけたらと思うている。

人とつながる事によって、時には傷ついたり嫌な思いをする事もあると思うが、それ





上に得られる物も大きいと思う。これからまだ沢山の人達との出会いがあると思うが、一つ一つ大切にしていきたいと思う。

もしも、この世に神様がいたら、病気になってしまった事は恨むが、大切な友達に会わせてくれたことには感謝をしたいと思う。